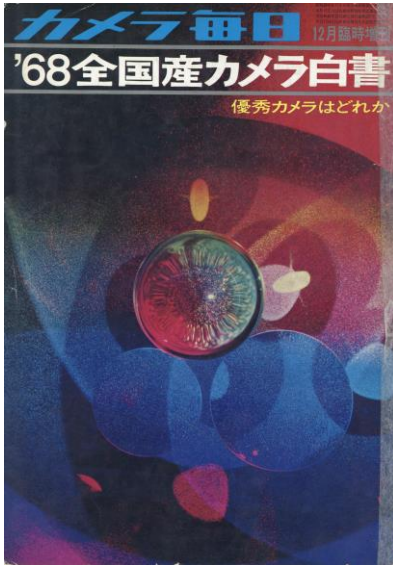


## 写真人とその本 21 / 田村 稔

日本カメラ博物館 JCII ライブラリー  
学芸員 宮崎真二

たむらみのる  
田村 稔（1920-1997）は、東北大学理学部を卒業後、千葉大学工学部で教授として応用物理と写真光学の研究を行いました。定年退官後は日本大学芸術学部写真学科にて写真光学と写真機械学を担当しました。



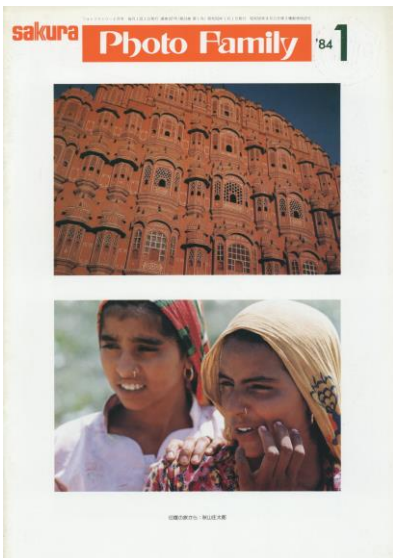
『'68 全国産カメラ白書』

雑誌への寄稿は、1953年の『写真工業』に写真レンズ測定の記事を寄せています。1965年1月号からは1年間にわたり、「カメラの人間工学」を連載しました。操作、表示方法、カメラの形状と保持などの諸要素を基に、チェックリスト方式による総合的判断を考察する内容でした。

『カメラ毎日』では、新製品のテスト記事「新型カメラを使って」（後の「新型カメラテストレポート」）に、1959年7月号から1985年4月の休刊号まで携わりました。同連載のテストは、田村の独創的なアイデアに基づいた方法で行われるとともに、実用に即した総合的評価を行ったことが特徴でした。特にレンズにおいては、ドーナツ状の図形を持つ「ハウレット型チャート」で測定を行い、画質の等しい部分を線で結んだ「画質図」を作成した上で、良好な画質と判定される部分の比を「良像面積」と定めるなどして評価を行いました。この測定法に依った特集として、1963年3月号「交換レンズの選び方・使い方」で161本、1965年11月号から翌年1月号まで「交換レンズ検討シリーズ」として96本、1967年4月号から6月号まで「1967年度国産レンズの全調査」として297本のテスト結果をまとめた記事などがあります。

これらカメラ・レンズのテストは臨時増刊としてまとめられ、1967年末に『'68 全国産カメラ白書』が発行されました。好評を博して『'69 全国産レンズ白書』も発行され、その後も1970年に『国産新型カメラ白書』、1971、74、79、80年版『カメラ・レンズ白書』が続きました。

1984年には、小西六写真工業（現：コニカミノルタ）の愛用者クラブ会報『フォトファミリー』（後の『フォトコニカ』）にて「写真遍路」を連載開始し、1991年4月号まで全88回にわたり掲載されました。内容はカメラブレ、カメラと手の大きさの関係など、千葉大学在職時に行った研究、機構やレンズに関する用語、レンズのカビ、内面反射などについての考察など様々でした。連載52回目以降は「国産カメラ曲折史」の副題を加え、失敗の積み重ねこそが現在のカメラに至るものとして、長年のカメラテストを通じて見出したカメラ・レンズ各部機能の問題点と理想について記述しました。



『フォトファミリー』1984年1月号